

PROGRAM OF THE 67TH  
ANNUAL MEETING OF THE  
PHILOSOPHY OF EDUCATION  
SOCIETY OF JAPAN

# 教育哲学会

第67回大会 プログラム

2024

9月7日(土)・8日(日)

早稲田大学早稲田キャンパス

Saturday, September 7 and  
Sunday, September 8

Waseda University Main Campus

## 大会日程

### 第1日 9月7日(土)

9:00~	受付
9:30~11:35	一般研究発表(第一部会~第五部会)
11:45~12:45	全国編集委員会(編集委員のみ)
13:00~14:00	総会・奨励賞授賞式
14:15~17:15	研究討議
17:40~19:30	懇親会

### 第2日 9月8日(日)

8:30~	受付
9:00~11:05	一般研究発表(第六部会~第九部会)
11:25~12:50	次世代育成企画
13:05~15:35	課題研究
15:45~17:45	ラウンドテーブル

## 大会前日

14:00~15:00	監査(関係者のみ)	(16号館6階612教室)
15:30~16:30	全国理事会(関係者のみ)	(16号館6階612教室)

## 参加要領

**参加申し込み** 当日参加申し込みも受け付けますが、準備の都合上、8月10日(日)までに大会サイトより事前参加申し込みをいただけますと幸いです。

**受付** 16号館7階713演習室(15ページの地図をご参照ください)

**大会参加費** 一般会員 4,000円、学生・当日会員 2,000円

**懇親会参加費** 一般会員 4,000円、学生・当日会員 2,000円

**一般研究発表にあたって** 発表20分/質疑応答5分  
※従来の「発表要旨集録」は「発表要旨・資料集」として大会の会員専用ページからダウンロードできるようにいたします。要旨とするか資料とするかは発表者にお任せします。原稿は9月2日までに大会サイト会員専用ページから資料をアップロードしてください。  
※万一発表を取りやめる場合、発表者は速やかに大会準備委員会(下記メールアドレス)までご連絡ください。なお、欠席者が出た場合にも、発表時間の繰り上げは行いません。

## 参加要領

### 資料等の配布について

本大会では、昨年度の大会に倣い、会場での資料配布を行いません。  
発表者から事前にご提出いただいた資料は、事前にオンラインストレージにアップロードし、PDF形式でのダウンロードを可能とする  
予定です。（詳細は次ページをご覧ください。）

なお、会場では配布資料のダウンロードのための WiFi 環境を整える  
予定です。 資料閲覧のための機器は各自でご持参ください。

### WiFiの利用について

会場内では **Eduroam** がご利用いただけます。（ご利用のためには  
事前にご所属機関でのご登録が必要です。）

※詳しくは [https://www.eduroam.jp/for\\_users](https://www.eduroam.jp/for_users) をご覧ください。

また、**Eduroam** を利用できない方は、大会期間中、早稲田大学の  
**Wifi** をご利用いただけます（パスワードは各会場に掲示予定）。

ただし、アクセスが集中した際に接続が不安定化する恐れがありま  
すので、重たいデータの送受信はお控えください。

### 昼食について

大会サイトに、会場近隣のお食事処、弁当屋、コンビニの地図を掲  
載しますので、ご参照のうえ、各自ご対応ください（簡易版の地図  
を受付にて配布予定）。

### 託児室について

就学前のお子様をお連れの方には、学内の託児室の一時預かりをご  
利用いただけます。料金は1時間あたり 2,750 円です。事前登録が  
必要ですので、ご希望の方は、8月10日までに、準備委員会にメー  
ルでお知らせください。ただし、利用希望の人数が規定に満たない  
ばあいは、託児室が閉室となり、ご希望にそえないこともあります  
ので、お含みおきください。

### 感染症対策について

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日より「5  
類感染症」となったことを受け、今大会では感染症対策を各自の判  
断にゆだねた上、参加者には建物に入場する際の手指の消毒、こま  
めな手洗い、消毒をお願いいたします。また、会場ではできる限り  
相互に距離を取れるようにし、適宜、換気を行うように努めます。

### 喫煙所について

早稲田大学では所定の屋外喫煙スペース以外での喫煙はできません。  
喫煙スペースについては会場のスタッフにお尋ねください。

## 発表要旨集録・発表資料の配布（ダウンロード）方法について

- 発表要旨・資料集** 今回の大会では前大会同様、発表要旨集録の印刷配布はせず、「発表要旨・資料集」として電子版のみで配布を予定しています。
- 発表資料** 各発表者の発表資料に関しても今回の大会では会場での紙媒体での配布は行わず、「要旨集録」と統合して、「発表要旨・資料集」として電子版のみで配布することとさせていただきます。
- 総会資料** 総会の資料に関しても、今回の大会では、電子版で配布いたします。

※以上の資料については、大会サイト（ホームページ）の会員専用ページからダウンロードをお願いします。総会資料は当日、その他の資料は9月4日の公開を予定しています。

大会準備委員会メールアドレス [pesjtaikai2024@gmail.com](mailto:pesjtaikai2024@gmail.com)

第 67 回大会サイト <https://pesjtaikai2024.wixsite.com/pesj2024>

（パスワードは郵送したプログラムを  
ごらんください。必要な方はご氏名、  
ご所属を明記のうえ、上記大会準備委  
員会メールアドレス宛にお問い合わせ  
ください）



## 懇親会

9月7日（土）研究討議終了後 ～ 19時30分

- 懇親会の開催** 前回の九州大学での大会に続き、今回も懇親会を開催する予定です。全国各地からご参加をいただく方々に旧交を温めていただくとともに、この間に教育哲学の分野に新たに加わられた新会員・当日会員とも新たな交流を生み出す場としてぜひご利用ください。第1日の一般研究発表や研究討議の場では語りつくせなかった様々な議論、あるいはそれらから触発された新たな着想の共有、そして第2日の一般研究発表や次世代育成企画、課題研究やラウンドテーブルの予告やそれらに向けた事前質問など、学会大会の懇親会でしか行うことのできない参加者相互の交流を心ゆくまで行っていただければと願っております。

16号館7階701教室

## 第一部会 日本思想と教育哲学

司会：桑嶋晋平（日本女子大学）、山田直之（関西大学）

- 09:30 空海言語論における「文字」の持つ意味とその可能性  
藤林優徳（名古屋大学・院生）
- 09:55 旧制高等学校「倫理」教科書としての『善の研究』  
高谷掌子（石川県西田幾多郎記念哲学館・研究員）
- 10:20 分裂する主体性—中井正一における集団的主体性の思想と実践—  
川上英明（山梨学院短期大学）
- 10:45 全体討議（～11:10）

16号館7階702教室

## 第二部会 教育理念と教えること

司会：櫻井佳樹（香川大学）、広瀬悠三（京都大学）

- 09:30 民衆に対する母語の教育 ヘルダーの学校構想をもとに  
大保瑤輔（慶應義塾大学・院生）
- 09:55 「成年性」のイデオロギー化への批判とその再構築の可能性  
——1945年以降のドイツ教育学における議論の批判的検討を通じて——  
櫛桁祐哉（東京大学・院生）
- 10:20 誤読され続けるカント道徳  
寺崎賢一（元都留文科大学非常勤講師）
- 10:45 厄災の悲惨を「教える」ことに関する一考察  
——近年の教育哲学の議論を参照して——  
白銀夏樹（関西学院大学）
- 11:10 全体討議（～11:35）

16号館7階704教室

## 第三部会 英米圏の教育哲学

司会：尾崎博美（東洋英和女学院大学）、虎岩朋加（椋山女学園大学）

- 09:30 C.S. パースにおける「進化」の多元的解釈：  
ダーウィニズムの個人主義に対するラマルキズム的応答  
宮坂朋彦（東京学芸大学・院生）
- 09:55 リチャード・ローティの人間形成論  
ーローティの「偶然性」概念とフロイト解釈の関わりに着目して  
藤橋宙生（明治大学・院生）
- 10:20 アクションリサーチにおけるプラグマティズムの思想  
高田正哉（会津大学短期大学）
- 10:45 利他主義を基盤とする教育目的論の正当化可能性  
平井悠介（筑波大学）
- 11:10 全体討議（～11:35）

16号館7階705教室

## 第四部会 教育と政治

司会：太田明（神戸医療未来大学）、村松灯（帝京大学）

- 09:30 不登校問題の承認論的一解釈：学習権概念の捉え直しに向けて  
柴山尚久（広島大学・院生）
- 09:55 「不正義」のアプローチに関する政治哲学的一考察  
山木成（大阪公立大学・院生）
- 10:20 バーナード・クリックの政治教育思想における「妥協」と政治リテラシー  
北村佳誉（明治大学・院生）
- 10:45 教育学における子どもの権利概念の再解釈  
ーコルチャックの「子どもの権利」思想を手がかりにー  
松浦明日香（広島大学・教育研究推進員）
- 11:10 全体討議（～11:35）

第五部会 人間形成と生成変容

司会：久保田健一郎（大阪国際短期大学）、室井麗子（岩手大学）

09:30 学習論におけるブリコラージュの可能性

齋藤圭祐（九州大学・院生）

09:55 個として出会うこと—前期ドゥルーズの個体化の方法とその困難—

瑞慶覧洸太（東京大学・院生）

10:20 メルロ＝ポンティのテクストを *Bildungstheorien* の文脈に位置づける

常深新平（慶應義塾ミュージアム・コモンズ・学芸員補）

10:35 教育の起源と人類の起源—鳥のさえずりの教育学的位置付けについて

森亘（武蔵野美術大学・研究補助）

11:00 全体討議（～11:35）

16号館7階702教室

## 第六部会 価値教育と哲学

司会：三澤紘一郎（京都大学）、山辺恵理子（早稲田大学）

- 09:00 知的な人格特性の涵養を P4C の目的とすることはできるか：可謬主義に基づく批判的考察  
板野誠（広島大学・院生）
- 09:25 倫理的価値・性向の再生産はいかに擁護され得るか  
—倫理の客観性と相対主義をめぐる B.ウィリアムズの議論を手がかりに—  
古舘充斗（東京大学・院生）
- 09:50 リクルールの〈自己の解釈学〉における道徳-教育論：  
自律と脆さの逆説を生きる教育の可能性をめぐって  
朝岡翔（平安女学院大学）
- 10:15 全体討議（～10:40）

16号館7階704教室

## 第七部会 主体性の教育哲学

司会：堤優貴（日本大学）、丸橋静香（島根大学）

- 09:00 フーコーにおける主体の生成論について  
木村綜一朗（東京大学・院生）
- 09:25 M. ブーバーにおける教育の倫理—「無為の行為」というアポリアを手がかりに  
三木春紀（慶應義塾大学・院生）
- 09:50 教育関係としての〈世界への親しみ〉—ハイデガー道具論における「主体性」批判の観点から  
森七恵（京都精華大学）
- 10:15 レヴィナス再帰概念の教育学的含意  
安喰勇平（神戸市外国語大学）
- 10:40 全体討議（～11:05）

16号館7階701教室

## 第八部会 境界線としての「教育的なるもの」

司会：生澤繁樹（名古屋大学）、鳥光美緒子（中央大学）

09:00 教育における子どもの自由に関する一考察：  
消極的自由の成立根拠を問うことの意義と展望

高須明根（広島大学・院生）

09:25 精神分析を人間形成論（Bildungstheorie）として読み解くことの困難さはどこにあるのか

-J.ツィルファスのフロイト論を手がかりに-

後藤悠帆（佐賀大学国際交流推進センター・コーディネーター）

09:50 ジョン・デューイの著作にみるエネルギー概念：

コロンビア大学期の用例を中心とした分析

井谷信彦（武庫川女子大学）

10:15 ニーチェにおける「自然」と「教育」

今井康雄（東京大学・名誉教授）

10:40 全体討議（～11:05）

16号館7階705教室

## 第九部会 教育における遂行性

司会：小松佳代子（長岡造形大学）、藤川信夫（大阪大学）

09:00 感情労働論における深層演技概念のドラマトゥルギー的解釈：教職の理解のため

金弘理志（広島大学・院生）

09:25 「黙っている」ということをめぐって——寺山修司による批評・評論を中心に——

上坂保仁（明星大学）

09:50 ベンヤミンにおける映画と大衆教育：世界を再び使用可能にするために

浅井健介（奈良教育大学）

10:15 全体討議（～10:40）

## 学校で民主主義を教える

登壇者	市川 秀之 (千葉大学)
	藤井 佳世 (横浜国立大学)
	近藤 孝弘 (早稲田大学)
司会	上野 正道 (上智大学)
	藤井 千春 (早稲田大学)

学校における民主主義の教育についてデューイは、周知のように、民主主義を教えるのではなく、民主的な生活をとおして経験することを説いた。それは意図的・制度的な学校教育の限界を見据えていた。また、民主的な生活を学校に取り入れる「萌芽的コミュニティ」としての学校を説き、ソーシャル・センター運動が起こるが、当初の目的を果たせないまま 1930 年代には終息したとされる。民主主義を学校で教えることは、理論的に困難を抱えており、それは歴史が示している。

近年にみる民主主義と教育論の多様な展開は、現代におけるその困難への対応ともみなせるだろう。ロールズの正義論にみるような民主主義の規範理論、参加民主主義における公共性論議、熟議民主主義と闘技民主主義の対立と調停、それを背景とするラディカル・デモクラシーの台頭、ケア倫理などに注目した検討が蓄積されてきている。

本研究討議では、そのような関心の高まりをふまえ、論点・争点を整理しつつ、学校における民主主義の教育の原理について再検討し、提案することをめざす。

その際の視点を例示すると、まず、学校という、人的・物的リソースや時空間に制約がある場において、どこで、どのように教えるかという、現実的で実践的な問題があげられる。教科等でいえば、道徳科、社会科、公民科公共、総合的な学習(探究)の時間、特別活動などが想定されるだろう。これまでの民主主義に関わる研究討議をみると、教育(学)と政治(学)、市民性教育などが共通して言及されている。教育哲学に基づく民主主義教育のあり方として、道徳教育を軸にするパターンと、政治教育を軸にするパターンがあるように思われる。市民性教育は両者を接合・統合するものとみなせるかもしれない。民主的な社会の担い手たる市民を、教育課程内外のどこで、どのように教えるか。教科等とは別の領域(たとえばアート)を構想するのがよいのか。

熟議民主主義と闘技民主主義の拮抗関係を背景とする民主主義教育論の多様な展開と、その学校への応用も注目し値するだろう。様々な論者が相互に対立・関係しながら、様々な主張が提起されている。それぞれの新規性や独自性を、学校で民主主義を教える原理に反映させることができそうか。批判理論や批判的教育学の継承と発展も重要になるだろうが、そもそも「批判」とは何か。何に対しての「批判」なのか(たとえば、グローバルな環境問題や格差問題、民主主義そのものへの疑念)。「批判」をめぐる検討は、学校における探究的活動の原理を構築する上でも重要になるだろう。

市民が民主主義の担い手になりうるのかという、古くて新しい課題も再燃している。近年、ポピュリズム、ポスト・トゥルース、フェイクニュースなどへの疑念から、エピストクラシー(専門的な知識や良識を備えた者による支配)が唱えられている。他方、一般人、市民の「認識」に依拠して、民主的によりよい判断を導くことを重視する「認識的デモクラシー」が対置されている。生成AIの活用やDXの推進により、民主主義のつくり方が再構築されてもいる。学校でもGIGAスクール構想が推進されているが、学校における民主的な市民の育て方にいかなる影響を及ぼそうか。

本研究討議では、以上のような諸点を視野に入れつつ、民主主義を学校で教えるための原理について、会員とともに理解を深め、展望する機会としたい。

11:25~12:50

16号館7階 701,702教室

## 〈若手〉と語るキャリア形成

報告者 教育哲学研究に関わる〈若手〉20名以上  
(グループディスカッション形式)

昨今、20代から(アカデミック)キャリアをスタートさせる人々が増えている。それに伴い、研究者としてのキャリア形成が多様化される中で、「査読に通るためには」「経済的に安定して研究を続けるためには」といった不安も若年化しているように見受けられる。そこで、今年度の次世代育成企画では、できるだけ多様な出身大学の〈若手〉(大学以外の就職をしながら研究を続けている者も含む)を報告者とし、彼・彼女らを囲む少人数のグループを複数作成し、院生時代の研究の進め方、キャリアの選定の仕方、就職後の状況などについて、自由に語り合える場を提供する。

キャリアをスタートさせる前の会員にとって、上述の不安がハウ・ツールの要求のみに縮減されることなく、みずからのキャリアについて柔軟に展望する機会になることを願う。中堅以降の会員にとっても、自分の指導生のキャリアについて新たな視点を持つ機会になりうると考える。

今回の企画は、ランチタイムセッションであり、少人数グループ内での対話が中心となる。ぜひ「〈若手〉が語る・〈若手〉に聞く」機会として、多くの会員のご参加をいただきたい。

また、「語る」のは〈若手〉が中心であるが、参加については全世代の会員を対象としているため、どの世代の方にも遠慮なくご参加いただけることを願っている。

参加するグループについては、事前に報告者一覧を提示し、希望を受け付ける。もちろん、当日の参加希望でも構わない。Zoomでのグループも設定するため、当日に会場に来られない会員もぜひご参加を検討していただきたい。

【報告者一覧】(PDFファイルが開きます。8月10日頃公開予定)

[https://drive.google.com/file/d/1ssOLskS27TlpCxObbzXnDe\\_JlK6F2vdG/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1ssOLskS27TlpCxObbzXnDe_JlK6F2vdG/view?usp=drive_link)

【参加希望グループ&事前質問フォーム】(Googleフォームが開きます。8月25日頃公開予定)

<https://forms.gle/TTAoWQk6bvUtXJB77>



※ランチタイムセッションのため、必要に応じてお食事と飲み物をご持参ください。

全会員の皆様の多くのご参加をお待ちしております。(次世代育成企画委員会)

## 「教育」と「主体(性)」を再考する

——「保護」でもなく「排除」でもなく、「包摂・統合」でもなく「解放」でもなく——

報告者 石神 真悠子(東洋英和女学院大学)

土屋 明広(金沢大学)

森岡 次郎(大阪公立大学)

司会 野平 慎二(愛知教育大学)

室井 麗子(岩手大学)

「主体(性)」が批判されて久しい。しかし、「主体(性)」をめぐる議論は、むしろ今日、グローバルズムと対抗運動の拮抗の中で、教育と政治と経済とが相互に結びつきながら、再び活発化している。元来、近代政治(論)の眼目は、「近代的主体」と呼ばれる存在たちの、集団的自己統治のあり方の探究にあった。そこでは、「すべての人間」が「潜在的には自由で平等な存在」として、あるいは「生物学的な個体」が「私権の(享有)主体」とみなされ、「権利能力」「意思能力」「行為能力」という社会関係構築の前提能力を備えた「自然人」が近代社会の「法的主体」とされたのであった。

他方で、近代教育(論)は、「(近代的)主体ではない存在」を見出してきた。近代教育(論)は、「(近代的)主体ではない存在」すなわち「潜在的な主体」を「顕在的な主体」へと形成することを主要な課題の一つとしてきた。実際のところ、近代政治(論)が前提とする「近代的主体(性)」は「自然に」獲得されるのではなく、「教育」が要請されるのであり、そこに「教育」と「政治」との接合・交差の契機がある。そのような近代教育のうちには、「権利能力」と「行為能力」の間をつなぎ、「意思能力」を涵養する営みがあった。この営みは「(行為の結果が「被害」とならないように)個人を保護すること」と「よりよい家族や社会」を構築する素養を育む「市民性教育」として捉えうる。これは、「私法の主体」たる「ブルジョワとしての市民」(ホモ・エコノミクス)が暗黙のうちに前提されたものと言える。もう一つの営みは、「公法の主体」としての「シティズン(シトワイオン)としての市民」(ホモ・ポリティクス)の育成であり、それは、主権者教育=政治教育に関わるとも捉え得る。

今日、経済や政治のグローバルゼーションに呼応する形で教育が国際化される動きが加速し、以上のような近代教育の二つの営みが結合・統合され、「新たな・これからの近代的主体」の育成が先鋭的に推進されている。この趨勢は、人類を含む数多の存在の生存そのものを左右する諸課題が、地球規模で政治的課題として噴出している状況に一定対応しようとするものかもしれない。とはいえ、政治や経済が前提とする「近代的主体」の育成への教育的営みの収斂は、政治や経済を「下支えするもの」へと教育そのものを切り詰めていないだろうか。さらに、「近代的主体(性)」形成の先鋭化という趨勢において、近代教育のもう一つの重要な側面に目を向けなければならない。

「近代的主体」の形成は、「意思能力」涵養の営みを通して、「意思能力がある/ない/不十分」という「スクリーニング」としても機能してきたのである。それは、保護につながる一方で、優生思想や排除にも理論的につながりうるし、歴史的にはつながってきた。このような観点からすると、教育が政治・経済と密接する形で展開される今日の「主体(性)」をめぐる議論はどのように捉えうるのだろうか、あるいはむしろ、どのように根本的に組み換えうるのだろうか。

このような問題意識から、本課題研究では、教育と主体(性)についてあえて再考してみたい。

16号館7階702教室

## ラウンドテーブル1

## 演劇・アイロニー・主体 —コミュニケーションと教育・再考—

企画者・司会者	渡辺 哲男 (立教大学)
話題提供者	粕谷 圭佑 (奈良教育大学)
	中谷 森 (津田塾大学)
	渡辺健一郎 (俳優・批評家)

## 企画趣旨

教育社会学、とりわけ教室における教師と子ども／子ども同士の会話分析を専門とする研究者、シェイクスピア戯曲の日本の劇作家による翻案／翻訳を通して近代以降の文化交渉の諸相を検討してきた演劇学の研究者、そして『自由が上演される』（講談社）で批評家デビューを果たした俳優、演劇ワークショッププランナーを報告者に迎えたラウンドテーブルである。「コミュニケーションと教育」をめぐる問題は、教育哲学研究において繰り返し論じられてきたテーマであるが、今回は多様な領域からの知見を導入し、タイトルに掲げたキーワードをもとにしてこれまでの研究を相対化しながら、今後の新たな展開を模索したい。

16号館7階704教室

## ラウンドテーブル2

## 分析的教育哲学最盛期の哲学者たち：R・S・ピーターズとM・ウォーノック

企画者・司会者	三澤紘一郎 (京都大学)
話題提供者	高屋 景一 (國學院大學)
	渡邊福太郎 (慶応義塾大学)

## 企画趣旨

分析的教育哲学は、哲学における言語論的転回を契機として成立し、1960年代-70年代半ばにかけて全盛期を迎えた。精確な言語使用、明晰な議論展開といった「スタイル」としては、今日に至るまで大きな影響を及ぼしてきた一方で、創成期の分析的教育哲学者たちの主張内容については、理性中心主義、価値中立性の僭称、論点先取、概念分析の限界といった批判のもとに、過去の遺物とみなされる傾向が強い。本ラウンドテーブルでは、こうした批判の妥当性の検証とともに、彼らの哲学的業績の再評価を試みる。その目的のために、英国分析的教育哲学の創始者と言える R・S・ピーターズ (Richard Stanley Peters) とその最盛期に論考を寄せ続けた女性哲学者 M・ウォーノック (Mary Warnock) の二人に焦点を当てる。彼らの哲学議論を現在の「分析的教育哲学」の動向とも交錯させることにより、往時の分析的教育哲学が明示あるいは包含していた議論内容を再検討することとしたい。

## ラウンドテーブル3

## 「教育と政治」という交差点——規範をめぐる語りの諸相

企画者	高宮 正貴 (大阪体育大学)
司会者	市川 秀之 (千葉大学)
話題提供者	杉田 浩崇 (広島大学)
	田中 智輝 (山口大学)
	高宮 正貴
指定討論者	小玉 重夫 (東京大学)

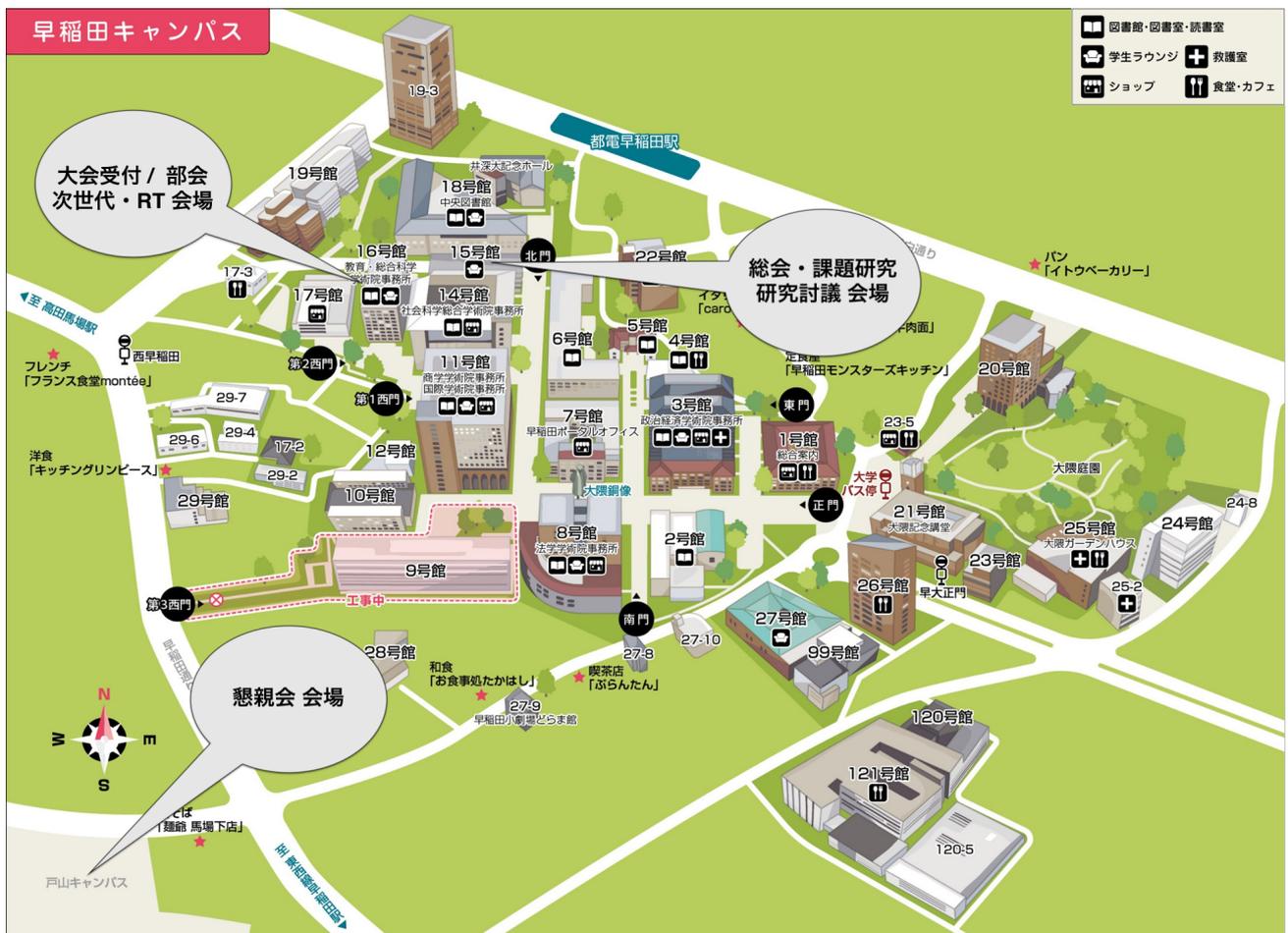
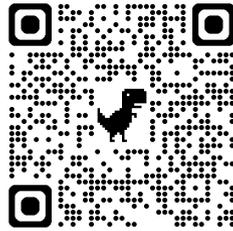
**企画趣旨**

教育哲学において教育と政治の関係を捉えるには、複数のアプローチがある。それらは、①抑圧状態からの解放を目指す主体形成論が生権力と分かち難く結びつくことを踏まえて、権力の組み換えを試みる生政治論。②政治学に基づいた教育(学)の再考のみならず、教育学の視点から政治(学)への新たな洞察を試みる人間形成論。③政治を存在論に探究するのではなく、当為と事実を峻別し、当為を正当化する論理を構築する規範的政治理論である。本企画では、「教育と政治」という問題圏を交差点として見立てたとき、3つのアプローチがいかに関わる／関わらないのかを検討する。教育が意図的な働きかけを含む以上、「規範」をめぐる語りは不可避だが、3つのアプローチから「規範」は別様に語られよう。これらが交差する中で各々がその他のアプローチを眺めた時、「教育と政治」にどのような通路が拓かれうるのかを参加者とともに探究したい。

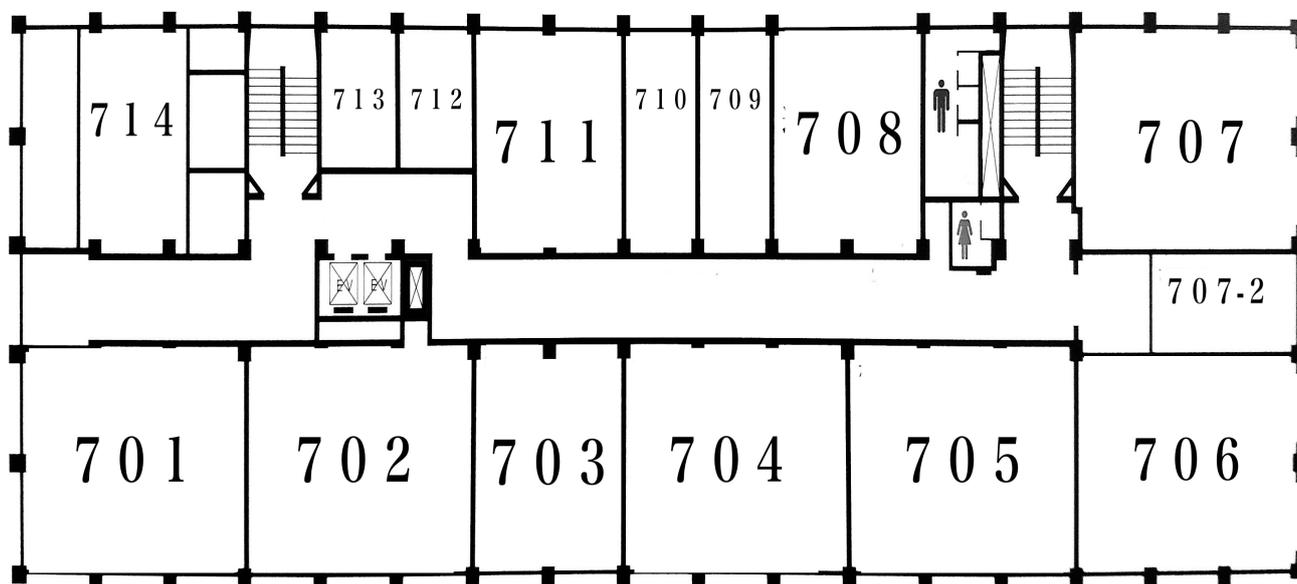
## 交通アクセス・早稲田キャンパス案内図

- ◆ 東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩5分
- ◆ 東京メトロ副都心線 西早稲田駅から徒歩17分
- ◆ 都バス 学02 (学バス) 高田馬場駅 - 早大正門 終点下車
- ◆ 東京さくらトラム (都電 荒川線) 早稲田駅から徒歩5分
- ◆ JR 山手線 高田馬場駅から徒歩20分
- ◆ 西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩20分

くわしくは大学HP「[交通アクセス](#)」をご確認ください



## 会場マップ (16号館7階)



※15号館（総会、研究討議、課題研究会場）および  
戸山カフェテリア（懇親会会場）へは誘導員がご案内します

1日目 (9月7日)		2日目 (9月8日)	
<b>一般研究発表</b>		<b>一般研究発表</b>	
第一部会：部会1	16号館7階701教室	第六部会：部会6	16号館7階702教室
第二部会：部会2	同702教室	第七部会：部会7	同704教室
第三部会：部会3	同704教室	第八部会：部会8	同701教室
第四部会：部会4	同705教室	第九部会：部会9	同705教室
第五部会：部会5	同706教室	<b>次世代育成企画</b>	同701教室
<b>総会</b>	15号館4階401教室		702教室
<b>研究討議</b>	15号館4階401教室	<b>課題研究</b>	15号館4階401教室
<b>懇親会</b>	戸山カフェテリア	<b>ラウンドテーブル1</b>	同702教室
		<b>ラウンドテーブル2</b>	同704教室
受付	16号館7階713演習室	<b>ラウンドテーブル3</b>	同705教室
会員控室	同703教室	会員控室	同703教室
運営スタッフ控室	同708教室	運営スタッフ控室	同708教室

〔教育哲学会第 67 回大会 準備委員会〕

委員長	藤井 千春	(早稲田大学)
事務局長	佐藤 隆之	(早稲田大学)
準備委員	坂倉 裕治	(早稲田大学)
	伍 翔南	(早稲田大学)
	鷗海未祐子	(駿河台大学)
	古井戸祐樹	(国立教育政策研究所)
	定方 太希	(九州看護福祉大学)
	杉山 大幹	(鹿児島大学)
	辻 和希	(富山国際大学)
	持田 洸	(立正大学)
吉野 敦	(大分大学)	



教育哲学会第67回大会 準備委員会